

労働者安全衛生対策部会
資料 3

救急医療及び搬送体制について
－ E R の運用状況について－

2017年10月12日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 1 F 救急医療室 (1/4)



◆ 救急医療体制

医師、救急救命士、看護師、事務員の4名で24時間対応。

医師：当社の医師1名に加え、救急医療体制ネットワークより派遣。

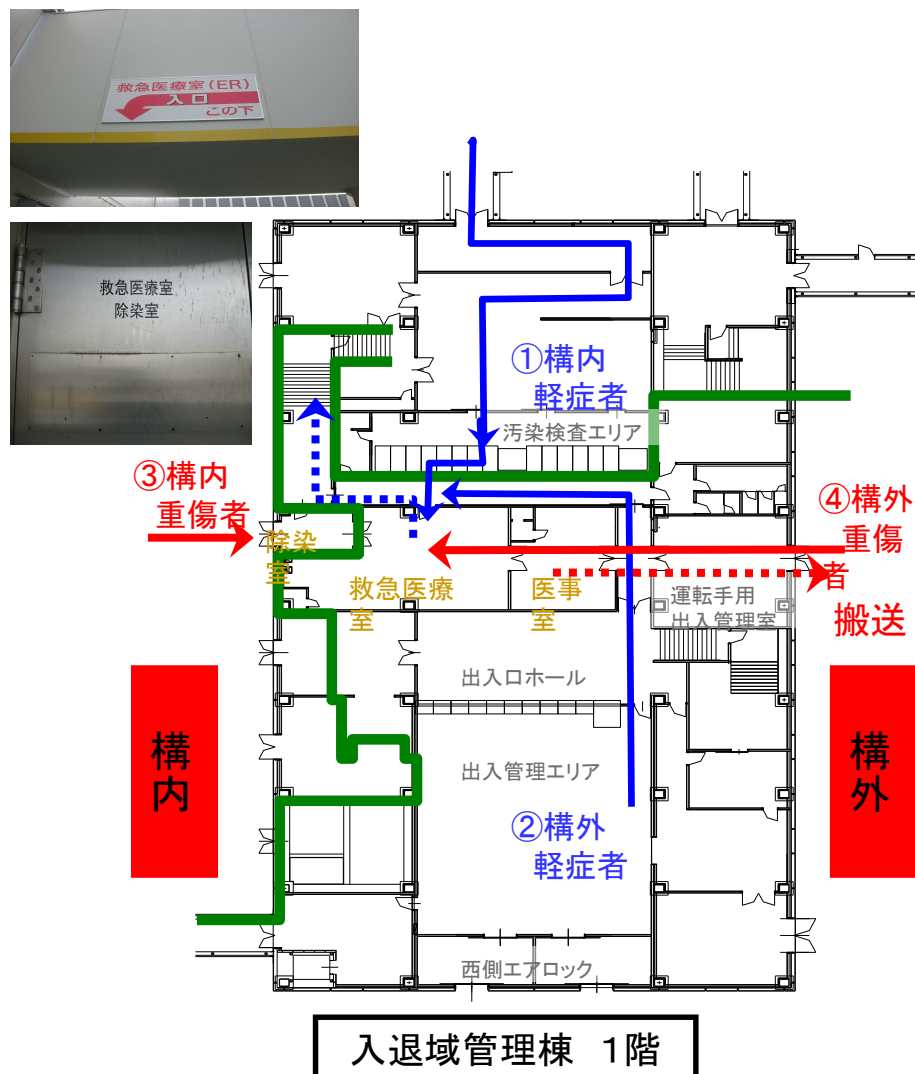
救急救命士：日本救護救急財団より派遣。

◆ 可能な救急処置

- 負傷、熱中症、心筋梗塞等の救急医療を必要とする患者に対し初期診療を実施。
- 重症患者の場合には、必要に応じて現場救護を行うとともに、後方医療機関への搬送の要否を判断。
- その他の軽微な傷病も含めて、受診した患者に対する初期診療の提供。

1. 1F 救急医療室 (2/4)

◆ 救急医療室への入室動線



軽症者

①【構内】

- 汚染検査エリアのゲートモニター通過後、「救急医療室」入口から入室。

②【構外】

- 出入管理エリアのPP警備員の指示に従い、「救急医療室」入口から入室。

重傷者(意識不明or歩行不可)

③【構内】

- 管理対象区域側の「除染室」入口から入室し放管員によるサーベイを実施後、「救急医療室」に移動。(なお、汚染がある場合は、「除染」又は「養生」にて対応。)

- 医師の診察および処置を実施し、後方医療機関へ搬送が必要な場合は、傷病者を「運転手用 出入管理室」から救急車等へ搬送。(防護区域扉の開閉はPP警備員の立ち会いにより実施)
- 傷病者に同行してきた現場管理者等は、通常のルートで退域後、救急車等に同乗。

④【構外】

- 「運転手用 出入管理室」より「救急医療室」に入室 (なお、防護区域扉の開閉はPP警備員の立ち会いを実施、念のため放管員によるサーベイを実施。)

1. 1F 救急医療室 (2/4)

◆ 機材・設備

除染室, レントゲン, 救急カート, 外傷縫合セット, 酸素ボンベ, ベッドサイドモニター, 超音波診断装置, 点滴器材, 各種薬剤 等



医療室



除染室



レントゲン室



診察エリア

1. 1 F 救急医療室 (4/4)

◆ 医薬品の配備

1. 初期診療に必要となる医薬品
2. ヨウ素剤（ヨウ化カリウム丸50mg：30,000錠）
3. 放射性物質が体内に取り込まれた場合に体外への排出を促進する体内除去剤（キレート剤）
 - Cs等の体内取り込み時用の除去剤（プルシアンブルー：360カプセル）
 - Pu等の体内取り込み時用の除去剤（Ca-DTPA:5ml×150管）



救急医療及び搬送体制について －救急車の稼働状況等について－

2017年10月12日

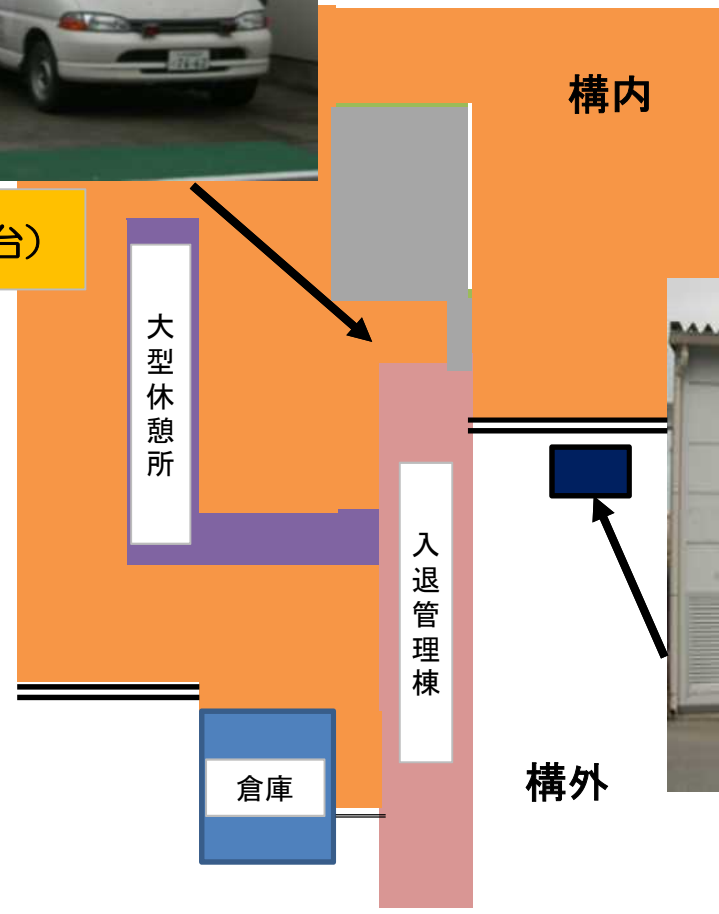
The logo for TEPCO (Tokyo Electric Power Company) is displayed in a bold, red, sans-serif font. It is positioned to the right of the date and above a thick red horizontal line that spans the width of the page.

東京電力ホールディングス株式会社

1. 1F救急車配備状況



② 構内救急車 (2台)



① 構外救急車 (2台)

2. 救急車の仕様

◆ 高規格救急車

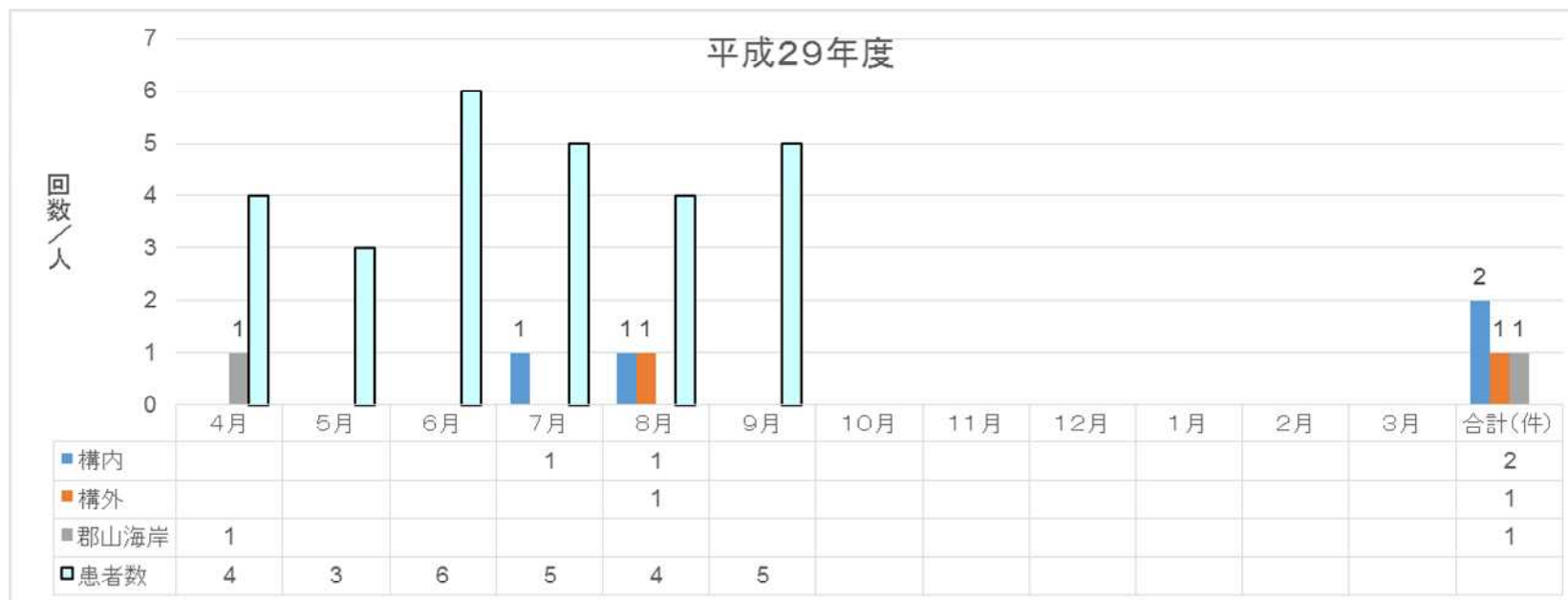
* 救急救命士による高度な処置が行える資器材を積載しています。傷病者収容部分及び収納庫を拡大し、救急患者に走行時の振動を与えないよう緩衝装置の付いた防振架台等を装備している。

◆ 資機材

- 観察用資機材・・・聴診器、血圧計、患者監視装置（バイタルサイン測定）等
- 人口呼吸器
- 自動式体外除細動器・・・電気ショックを与える医療器具
- 気道管理セット・・・吸引器、喉頭鏡、開口器等
- 搬送機材・・・ストレッチャー・布担架等
- 感染予防用具・・・プラスチックグローブ、マスク、防護衣類、ゴーグル等
- 脊柱固定用具・・・バックボード、頸椎固定カラー、ストラップ等
- 外傷キット・・・滅菌ガーゼ、タオル包帯、三角巾、空気膨脹型副木等
- 医療用酸素ボンベ
- 特定行為セット・・・食道閉鎖式エアウェイ、気管チューブ、輸液セット等

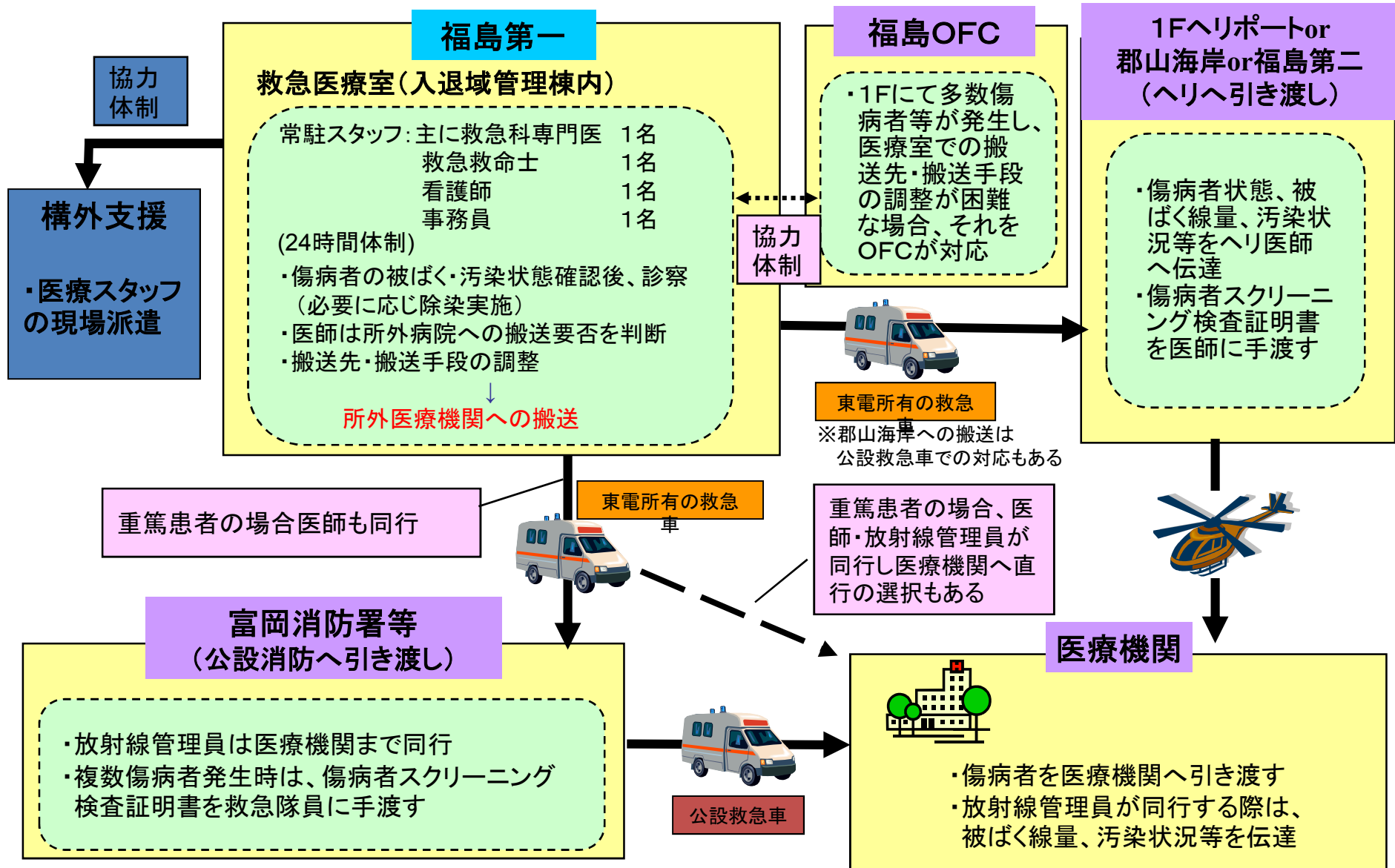
3. 救急車の稼働状況

◆ 救急車稼働実績



- 4月 西門休憩所から作業現場へ移動中に体調不良でER入室。
「心筋梗塞疑い」でドクターヘリ要請。郡山海岸駐車場へ公設救急車で搬送、救急車で同行。
- 7月 構内西門休憩所トイレで腹痛自覚し消失しないためER入電、救急車にて出向。「急性腸炎」
- 8月 構内固体廃棄物貯蔵施設9号棟で四股こむら返りと後頭部痛を自覚したため入電、救急車にて出向。「熱中症Ⅱ」
- 8月 構外企業棟バス待合所でバス待ち中に崩れるように転倒したためER入電、救急車にて出向。
「心肺停止」でER入室。その後、南相馬市立病院へ公設救急車にて搬送。

参考：福島第一原子力発電所 救急医療体制及び搬送体制



救急医療及び搬送体制について －ヘリポートを使用した訓練・課題等について－

2017年10月12日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 1 Fヘリポート



◆ 運用について

運用開始日：平成29年5月9日

運用時間（福島県ドクターヘリコプターの運航時間と同じ）

- 1月から4月及び8月から12月は、8時30分から17時00分
（17時00分前に日没となる場合は日没前まで）
- 5月から7月は、8時30分から18時00分

◆ 使用の範囲

- 救命救急活動
- 災害救助活動
- その他、活動のための訓練等

◆ 使用航空機の種類

- 全長及び全幅が20.0m以下
- 機体全装備重量が11,000kg以下

2. 1Fヘリポート離着陸訓練 (1/2)



◆1Fヘリポートのドクターヘリ離着陸訓練

開催日時：平成29年6月20日（火） 10時30分～ 10時55分

開催場所：福島第一原子力発電所 ヘリポート

• 訓練概要

福島第一原子力発電所にて、傷病者発生。ドクターヘリによる救急搬送を想定した離着陸訓練。

• 時系列

- 10時30分 双葉郡広域消防 訓練通報からドクターヘリを要請。
- 10時45分 救急車にて傷病者をERからヘリポート柵外へ搬送
- 10時50分 訓練現場付近上空接近（福島第一原子力発電所）
- 10時52分 福島第一原子力発電所 ヘリポート 到着・着陸
- 10時53分 傷病者をドクターヘリ医師に引継ぎ
- 10時55分 ドクターヘリ離陸

2. 1Fヘリポート離着陸訓練 (2/2)



◆ 離着陸時（訓練／実績）の課題事項

- ヘリ着陸後のサーベイを開始するタイミングが分からない。
→ パイロット等にサーベイする旨の確認を行い実施。
実績をみて、サーベイの有無について航空運航会社と調整する。
- 離着陸時の周辺道路通行規制の誘導員召集・配備について
→ 誘導員への出動要請の連絡は直接おこなう。
誘導員間の連絡は無線、事務所との連絡は携帯でおこなう。
- ヘリが近くにいた場合、ヘリの着陸が早い場合もある。
→ ヘリポートを使用する場合は、ドクターヘリ要請後、
5分以内に連絡をもらえるよう双葉広域消防に要望。

- * 誘導員の配備
- ヘリポート周辺の安全確保(ダウンウオッシュによる飛び石等の対策)
 1. ヘリポート周辺の進入路3箇所を閉鎖する。
 2. ヘリポート北側のバス駐車場 6台分のバスを移動させる。

3. 1Fヘリポート使用実績

TEPCO

◆使用実績

双葉広域消防より要請の1回

平成29年8月2日（水）に、大熊町小入野にある減容化施設で高所作業中に墜落災害発生に伴うドクターヘリの離着陸ポイントとして隣接する1F飛行場外離着陸場（ヘリポート）の使用。

